



# 夢の実

佐賀大学理工学部同窓会会報

2009.11.1

No.11



## 次期理工学部長就任にあたって

理工学部教授 林田 行雄

平成21年10月1日、理工学部第14代の学部長を拝命することになりました。誠に身の引き締まる思いであると同時に、理工学部・工学系研究科の教育・研究の持続的発展に全身全霊を傾ける覚悟であります。

理工学部は、昭和24年、新制佐賀大学の設置にあたり「文理学部」として発足し、昭和41年の改組をもって「理工学部」が誕生し、2,360人を超える学生の学舎となって今日に至っています。また、大学院については、昭和50年に「工学研究科(修士課程)」が設置され、昭和58年に数学専攻、物理学専攻、化学専攻が加わって「理工学研究科(修士課程)」とされました。更に、大学院における奥深い教育研究を行うために、博士課程(区別制)をもつ「工学系研究科」が平成3年に設置され、博士の学位を授与できる高等教育研究機関となり、理工融合を理念とした学部教育から大学院博士教育まで連なった確固たる教育課程が構築されました。現在、世界の国々から集まる留学生を含め、博士前期課程440人、博士後期課程110人を超える大学院生が奥深い研究に勤しんでいます。この間、我が国は、工業社会から脱工業社会、情報社会へと移りゆくなかで、「Japan as No.1」と世界から絶賛される程に高度成長を成し遂げました。その成長を支えた人々の中に、佐賀大学理工学部・工学系研究科において、豊かな教養と高度な科学技術の修得の証である学位(理学、工学、学術)をもって、社会で活躍してる総勢18,000人超の同窓生の力を忘れることはできません。

チェンジ!平成22年4月、工学系研究科を改組します。この改組は、中島晃学部長(次期佐賀大学理事・

副学長)のリーダーシップにより実現するものです。博士後期課程はこれまでの3専攻を廃止し、新たに1つの「システム創成科学専攻」を設置し、広範囲な科学技術の分野における高度な専門教育研究を教授します。博士前期課程は、機能物質化学専攻、循環物質工学専攻をまとめ、「循環物質化学専攻」とし理工融合の理念を具現化する高度専門教育研究を行います。更に、博士前期・後期課程を一貫した教育研究を念頭においた「先端融合工学専攻」には、医工学コース、機能材料工学コースを設け、旧佐賀医科大学と旧佐賀大学の統合で生まれた医工連携研究の成果を大学院教育に反映させます。この新たに生まれる理工学部・工学系研究科における教育研究指導を実質化するために、教員組織を工学系研究科に置きます。そして、理工融合の理念である「基礎に強い工学系学生、応用に強い理学系学生」の礎を学士課程教育で築き、知識基盤社会で活躍が期待されるプロフェッショナルを育成するために、高度専門知識や技術を深め、それを生かす教養を育む教育研究指導を行います。

以上に述べましたように、理工学部・工学系研究科の発展の原動力は、理工学部・工学系研究科を巣立った「同窓生の力」、「在学生の力」、「教職員の力」、そして「地域の力」が相乗してはじめて得られるものであり、皆様のご支援が大いに励みになっています。佐賀大学理工学部・大学院工学系研究科の輝かしい学風・伝統を引き継ぎ、その教育研究の成果を社会に還元できるように励みますので、よろしく願い申し上げます。



# 同窓生のものづくり

Vol.7

この特集は、理工学部出身の同窓生（数物情報系、化学系、機械系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ）に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いを通し、みなさんの活動への刺激や新たな交流の機会となれば幸いです。

## 数物情報系

### 新社会人が感じた「ものづくり」

株式会社 イメージワン  
東 健太

（情報システム学専攻・H21年修了）

私は今イメージワンという会社で働いています。イメージワンは主に衛星画像の販売や医療画像処理システムを開発している会社です。私は今年の3月に大学院を修了し、4月に入社、衛星画像を扱う部署に配属されました。入社以来、衛星画像から田んぼの面積を求める技術を開発しています。この技術は学術的には既に研究されており、精度やコストや運用方等を考えて事業に耐えうる形にするのが私の仕事です。

4月から働き始めて半年経ちましたが、そのなかで「ものづくり」に関するイメージが少し湧いたような気がします。需要を基礎にコストや利益を考えながら実現・継続の可能な物や技術を造ることが、新社会人の私の考える「ものづくり」です。

大学では衛星データから気象を解析する研究をしていました。大学の研究では主に新しい手法を考え出すことや、解析精度を向上させることを目的としていました。しかし、仕事となるとコストや運用や需要、売り上げ等を考えて開発を行わなくてはなりません。このことは既に「ものづくり」をされている方からすれば常識だとは思いますが、新社会人の私にとってはまさに新しい概念でした。

このような「ものづくり」をする上で、私は金銭や運用等の新しい概念に対する知識や経験が明らかに足りないと感じています。しかし、幸いなことに周りには知識や経験が豊富な方がいるので、「ものづくり」をしていく上で不足している事を日々学び、盗んでいこうと思います。



## 建設系

### 夢の架け橋

株式会社宮地鐵工所 計画部 計画グループ  
山下 修平

（都市工学専攻・H16年修了）

私は高校生のころ、同大学の先輩でもある義兄の影響を受け土木の道を選択しました。土木の中でも「橋づくり」を選んだのは、構造物としての見た目の美しさ



もありますが、橋が私たちの生活に果たす大きな役割に魅力を感じていたからです。「夢の架け橋」とは良く言いますが、実際に架かる橋も私たちの生活にとっては「夢の架け橋」に成り得るモノだと私は思っています。

入社4年目に「豊島大橋」という吊橋の製作・架設に設計担当者として携わりました。「豊島大橋」は瀬戸内海の島々を結ぶ橋の一つです。本橋が完成したことによって本土～愛媛県の岡村島までが陸続きとなり、通勤・通学・医療などの時間短縮や、地域振興・観光開発に大きく寄与しています。

平成20年11月に行われた本橋の開通式には島民より多くの祝福を受け、工事に携わった私たちも労いのお言葉を賜り、「橋づくり」に携われて良かったと改めて自分の仕事に誇りを持つことが出来ました。

一方で、経済不況など、公共事業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。そのため、先輩技術者の多くが携わっていた、本四架橋など技術者冥利につきる様な、夢のあるビックプロジェクトに携わるチャンスは少なくなってきたり、橋づくりに携わる技術者としては少し残念な状況になっています。それでも、豊島大橋の工事で感じた気持ちを大切に、そして、いつか来る(?)ビックプロジェクトに備えて、技術の研鑽に努めていきたいと思っています。皆さんが日々渡る街の橋も、そんな夢を持っている多くの技術者達が携わっていることを知って頂ければ幸いです。

## 海洋温度差発電の実現を夢見て

全国共同利用施設 佐賀大学海洋エネルギー研究センター  
池上 康之

(生産機械・S61年卒)

「海洋温度差発電」の研究がやりたくて佐賀大学に入学して27年になります。卒業後は、佐賀大学の大学院に進学し、一時、他の大学に3年間に在学しましたが、その後、佐賀大学に勤務させていただき18年になります。佐賀大学では、一貫して「海洋温度差発電」の研究教育に携わらせていただいております。この研究は、昭和47年から、元佐賀大学学長である上原春男先生が、今後のエネルギー・環境問題には、海洋温度差発電の実用化が不可欠であるとして、研究をスタートされて約40年になります。その間、研究施設は、佐賀大学理工学部の附属施設として海洋温度差発電に特化した形

で約20年間運営され、平成4年には佐賀大学の全学共同利用施設「海洋エネルギー研究センター」として、波力発電との二本



柱として海洋エネルギー全体を目指した施設に拡充されました。さらに、平成18年には、佐賀大学だけの施設に留まらない、「全国共同利用施設」として文部科学省に認定され運営を開始しています。この間多くの関係者の方々のご支援ご高配と海洋温度差発電の実現を夢見て研究を行ってきた多数の卒業生の方々のご尽力の賜と感じております。地球環境問題やエネルギー問題が世界的に懸念されるなか、海洋温度差発電も改めて注目されています。見学日が、木曜日と金曜日に確保されていますので、お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

## 電気電子系

### 「忍耐」そして...「成長」

有明工業高等専門学校 電子情報工学科  
石川 洋平

(システム生産科学専攻・H18年修了)

私は、福岡県大牟田市にある有明工業高等専門学校に勤めています。佐賀県には「高専」が無いので、あまり馴染みがないのではないのでしょうか？高専では、基本的に高校から短大までの5年間一貫のエンジニア教育を行っています。近年、専攻科を併設し、高校から大学4年までの7年間一貫教育も可能となりました。高専という名前だけはNHKロボコン等で耳にされた方もおられるのではないのでしょうか。私は、今年で着任して4年目を迎えました。卒研生も合計10人となり、順調に大学編入や、LSI設計会社に就職してくれています。

今回の特集タイトル「同窓生のものづくり」とは若干違いますが、今年度は18歳50人というBigクラスの担任をしているので「同窓生のひとづくり」と読み替えて書かせていただきます。

学生の指導上、一番苦労することは、授業でも生活指導でも、つい先回りしてアドバイスをしようとする事です。教えてしまえば簡単なことでも「我慢して待つ」そして「自分で理解させる」ということが一番重要だとは分かっているのですが...。「先生ケチか〜！」と言われると、ついカッパーンときて、答えを言ってしまうようになります。50人もいれば尚更です。

人を育てるといことは「我慢して待つ」=「忍耐」だと思えます。教員も忍耐を通じて、学生と共に成長していくものだと思います。

就職してもすぐに離職してしまう学生が多い昨今、何においても「忍耐」を教えることが重要だと思います。学ぶことも「忍耐」、教えることも「忍耐」。互いの「忍耐」の先に最良の「ものづくり・ひとづくり」がある気がします。



Bigクラス！「忍耐力」勉強中！

これからも、佐賀大学の卒業生として、歴史ある佐賀大学に3年・大学院編入できるような「忍耐力」の備わった優秀な学生を育てていきます。

## 化学系

### 『安全、安心』なものづくりを目指して

パナソニック株式会社 エナジー社  
岩尾 孝士

(工業化学専攻・H14年修了)

私は、パナソニック(株)エナジー社に勤めています。エナジー社は、パナソニックグループの中で電池事業を行っている所であり、主に、乾電池やニッケル水素電池、リチウムイオン電池等の製品を取り扱っています。

その中で、私は現在、車載用リチウムイオン電池の開発を行っています。車載用電池は、使用環境、安全性、コスト等、要求特性が非常に厳しく、毎日この難解な課題と向き合い、試行錯誤を繰り返しながら、電池の開発に取り組んでいます。

私が、電池の開発者として常に心掛けていることは、

『安全は全てに優先』です。エナジー社は、一昨年に重大な品質事故を起こし、お客様に多大なご迷惑をお掛けしました。それ以来、私は、このようなことを二度と起してはいけないと肝に銘じ、開発を行う過程で、安全検証を徹底的に行い、論理的な確証を以て、製品安全の判断を行う様努めています。その確証を得る為に最も必要なことは、『現場・現物・現実』主義の徹底であります。机上の空論ではなく、『現場』に足を運び、場を確認し、『現物』を手に取り、物を確認し、『現実』を目で見て、事実を知ること、物事の本質を捉えることが大事であると思えます。この思いは、私自身の開発理念の一つとして不変なものであり、これからも、『安全、安心』を最優先に考え、開発に取り組む所存であります。

最後に、今日技術者として、充実した日々を過ごしているのも、私の根幹を築いて下さった佐賀大学の先生方のご教授の賜物であり、大変感謝致しております。これからも、私自身、技術の向上を怠らず、日々努力を続けていきたいと思えます。



## 第11回 平成21年度 菱実会総会の報告

平成21年 8月29日(土)佐賀大学「菱の実会館」にて、総会を開催した。平成20年度事業及び決算報告並びに平成21年度事業計画と予算が承認された。

次に役員改選があり副会長、理事の交代と監事に新任の米満氏・高崎氏が決まった。

### 第5回佐賀大学理工学部学生表彰式



平成20年度（平成21年 4月 8日）

平成21年 4月 8日(水)理工学部学生表彰式が行なわれた。

学生表彰は、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた学生に対し、各学科から2名合わせて14名が表彰され、同窓会（菱実会）からは、図書券が贈られた。

（敬称略）

学 科	2年生(07)	3年生(06)
数理科学科	吉原和也	山下拓郎
物理科学科	橋本崇史	納身洋輔
知能情報システム学科	田久保 祥一郎	野田 みどり
機能物質化学科	山下 亜裕美	佐藤 竜 精
機械システム工学科	山野 久 寛	井上 隆 幸
電気電子工学科	淵上 浩 輔	中島 崇 臣
都市工学科	園田 朋 世	下田 直 也

## 平成21年度 事業計画

1. 会報発行
2. 会員の拡大
3. 同窓会名簿の管理
4. 同窓会支部活動
5. 就職援助活動
6. 各種情報の提供
7. 佐賀大学及び他学部同窓会と連携
8. 同窓生の表彰
9. その他の事業
10. その他

### 理工学部同窓会 6期役員名簿

（任期：平成21年 4月 1日～平成23年 3月31日）

（敬称略）

会 長	田 中 正 和	化学48卒
副 会 長	秋 永 正 幸	機械45卒
副 会 長	椿 忠 彦	物理52卒
理事(庶務幹事)	穂屋下 茂	機械49卒
理事(庶務)	前 山 道 明	機械46卒
理事(庶務)	深 井 澄 夫	電子53卒
理事(庶務組織)	寺 山 康 教	機械H11卒
理事(庶務組織)	渡 邊 健 次	物理62卒
理事(広報)	池 上 康 之	生機61卒
理事(広報)	磯 野 健 一	工化62卒
理事(広報)	帯 屋 洋 之	建設H4卒
理事(会計)	中 島 道 夫	化学47卒
理事(会計)	田 口 光 雄	電気50卒
監 事	米 満 潔	化学60卒
監 事	高 崎 光 浩	化学60卒

## 菱実会の動き（平成20年10月～平成21年 9月）

H20 .10 .1	理工学部同窓会会報「菱の実」No .10発行	H21 .1 23	機械システム学科	講師 卒業生 2名
H20 .12 .5	理工学部就職懇談会への支援	H21 .4 .8	理工学部学生表彰	同窓会より会長賞贈呈
H20 .12 .17	電気電子工学科	H21 .6 .4	理工学部同窓会会計監査	
	講師 卒業生 2名	"	理工学部同窓会役員会	
H20 .12 .19	機能物質化学科	H21 .8 29	理工学部同窓会総会・懇親会 / 佐賀大学「菱の実会館」	
	講師 卒業生 2名	H21 .8 31	理工学部同窓会会報「菱の実」No .11号編集会議	
H20 .12 .19	数理科学科			
	講師 卒業生 1名			
H21 .1 .9	知能情報システム学科			
	講師 卒業生 2名			
	物理学科			
	講師 卒業生 1名			
	数理科学科			
	講師 卒業生 1名			

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からの寄稿を心よりお待ちしております。

発行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会

佐賀市本庄町 1 佐賀大学内

TEL 0952 23 1253 FAX 0952 25 5700

http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 田中 正和 (S48・化) 編集代表者 池上 康之 (S61・生機)